

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
柏原市における結果概要

柏原市教育委員会

## 【全国学力・学習状況調査の概要】

### 1. 調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査対象学年

小学校 第6学年児童

中学校 第3学年生徒

### 3. 調査内容

(1)教科に関する調査 小学校：国語、算数、理科 中学校：国語、数学、理科

(2)生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査

#### ①児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習習慣、生活の諸側面等に関する調査

#### ②学校に対する調査

指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

※調査問題・結果資料は、国立教育政策研究所のホームページ内に掲載されています。

調査問題(R4)：<https://www.nier.go.jp/22chousa/22chousa.htm>

結果資料(R4)：<https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/>

# 令和4年度全国学力・学習状況調査結果(全体1)

## 今年度の結果

### 小学校

	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	※単位 (%) 全国 (正答率)
国語	65	64	65.6
算数	63	63	63.2
理科	61	60	63.3

### 中学校

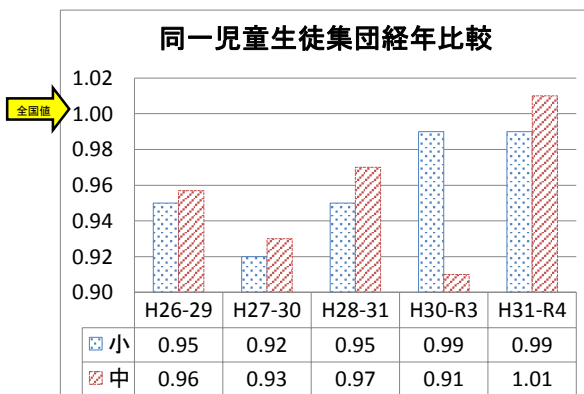
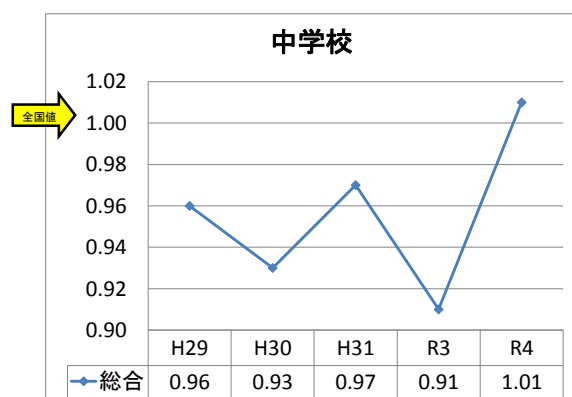
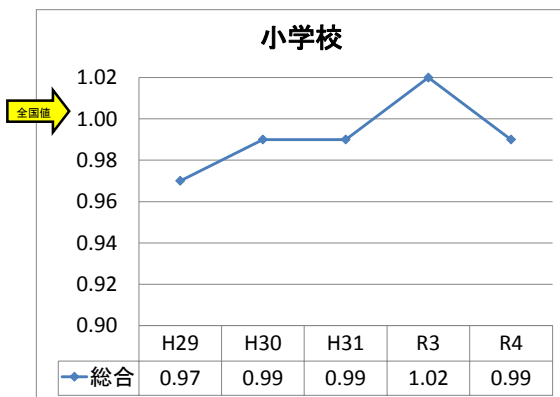
	柏原市 (正答率)	大阪府 (正答率)	※単位 (%) 全国 (正答率)
国語	70	67	69.0
数学	52	51	51.4
理科	48	47	49.3

・小学校において、国語、理科は大阪府平均を上回った。算数については大阪府平均と同率となった。  
 ・中学校において、国語、数学は全国平均及び大阪府平均を上回った。理科については大阪府平均を上回ったが、全国平均を下回った。

## 5年間推移(全国比)

※全調査(不定期実施の理科と英語を除く)を総合した平均正答率を算出し、全国の平均正答率を1として表したもの

※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



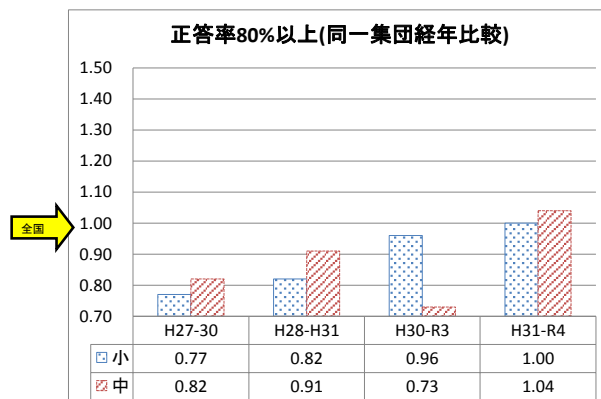
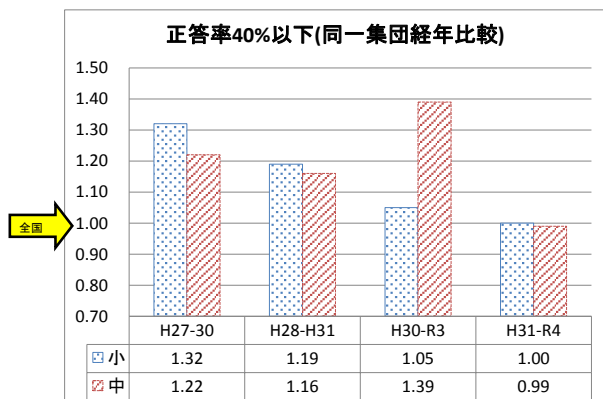
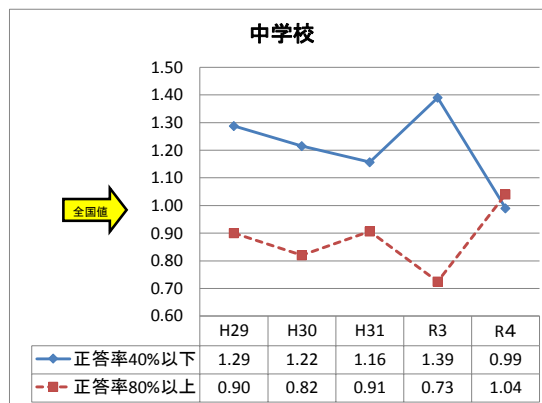
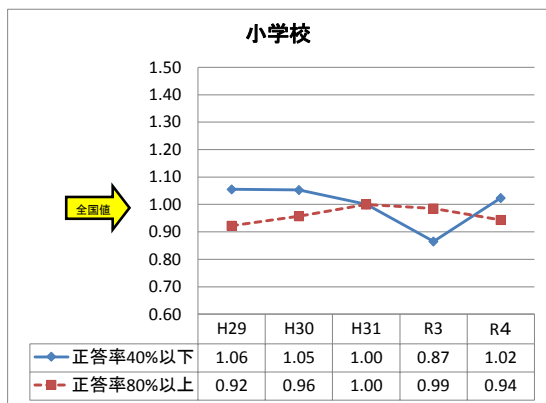
← 左記グラフの見方について  
 例) H31-R4  
 平成31年度の小学6年生を左側、その児童が中学3年生になった令和4年度を右側のグラフで示している。

・小学校は、平成28年度以降、上昇傾向であったが、今年度は全国を下回った。  
 ・中学校は、昨年度は大きく全国平均を下回っていたが、今年度は全国平均を上回った。  
 ・小、中学校いずれも変動はあるが、直近5年間で正答率は上昇傾向にある。  
 【同一児童生徒集団による経年比較】  
 中学3年生が小学6年生時(H31年度)より対全国比における正答率が上昇している(昨年度をのぞき、直近5年間は同様に上昇)。今年度の結果もふまえ、昨年度の中学3年生の結果については注視する必要がある。

## 令和4年度全国学力・学習状況調査結果(全体2)

### 正答率40%以下・80%以上の児童生徒割合の推移(全国比)

※柏原市内における正答率40%以下(低位層)・80%以上(上位層)の児童生徒の割合を算出し、全国の割合を1として表した。  
 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症に係る学校教育への影響等が考慮され、全国的に「実施なし」



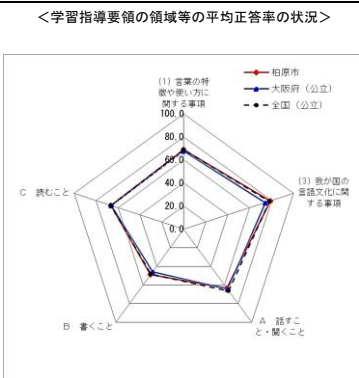
・小学校においては、正答率40%以下(低位層)の割合が増加傾向で今年度は全国より多く、正答率80%以上(上位層)の割合が減少傾向で、今年度は全国値よりも低い結果となった。

・中学校においては、今年度、正答率40%以下(低位層)の割合が減少し、正答率80%以上(上位層)が増加している。また、同一児童生徒集団での経年比較より、中学3年生が小学6年生時(平成31年度)に実施した時と比べると、若干ではあるが低位層の割合が低下し、上位層の割合が上昇している。

# 小学校国語

## 問題別調査結果

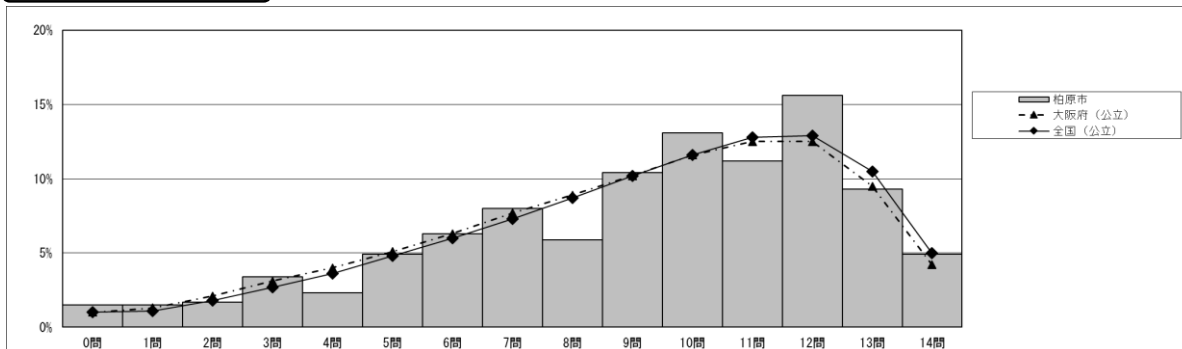
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			柏原市	大阪府	全国
全体			65	64	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.0	67.5	69.0
		(2) 情報の扱い方にに関する事項			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	78.9	74.2	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	63.6	64.4	66.2
		B 書くこと	48.9	46.0	48.5
		C 読むこと	66.3	65.9	66.6
		知識・技能	70.7	68.6	70.5
		思考・判断・表現	61.3	60.5	62.0
主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	71.5	70.4	71.8
	短答式	3	64.9	61.7	63.6
	記述式	3	49.3	49.4	51.3



○学習指導要領の内容「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「知識・技能」について全国及び大阪府の平均正答率を上回る結果となった。

- ▼「全体」では、大阪府の平均正答率を上回ったが、全国平均は下回る結果となった。
- ▼学習指導要領の内容「話すこと・聞くこと」の領域について、大阪府よりも0.8%、全国よりも2.6%下回った。

## 正答数分布



## 学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
(3) 我が国の言語文化に関する事項	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府とほぼ同等の分布傾向にある。  
正答数10、12問(中位層)の割合が大阪府や全国に比べて多い。

小学校国語で課題の見られた設問 1 四

岡さん

学校の近くの公園は、広くて遊具があり、一年生のころから遊んでいる場所です。私は、今まで使ってきた公園を自分たちできれいにすることで、もっとたくさんの人に気持ちよく使ってもらえるようにしたいです。私自身、どうすればよいか考えているところですが、みなさんはどんなアイデアがありますか。

谷原さん

私は、公園に行くとき、おかしなふくろやペットボトルがいっぱい落ちていて、気がなります。そこで、ごみを拾うきかがあるように思います。ア「きかい」というのは、ロボットのことではなく、活動する時間のことです。

山下さん

公園のごみを拾うことは、すぐにできるのでよいと思います。でも、続けることは難しい気がします。私は、この公園には花が少ないので、許可をもらって、もつとたくさんのお花を植えれば、はなやかな感じになると思います。

前田さん

確かに、山下さんの言うとおり、花を植えることは私たちにできるし、はなやかに、よいと思います。ただ、こまめに公園へ行って花の水やりなどの世話を続けることも難しそうですね。

中村さん

その点については、もう少し考えていきたいと思っています。私は、公園の遊具のベンキをぬり直すことが必要なのですか。

岡さん

ウ「どうして、公園の遊具のベンキをぬり直すことが必要なのですか。公園のすべり台やジャングルジムは、できてから時間がたっていて、どれも暗い感じがします。そこで、自分たちだけでできるかどうかは気になりますが、明るい感じにするために赤色や黄色のベンキで、ぜひぬり直したいと思っています。エ「なるほど、いいアイデアですね。ベンキをぬり直して明るくすると、公園がきれいになるということですね。」

中村さん

こうして、みなさんの話を聞いてみると、どれも公園をきれいにするためのアイデアですね。今までの話し合いで出たアイデアについて、よい点と問題点に分けて(メモ)をしてみました。

アイデア	よい点	問題点
ごみ拾い	△ごみがなくなる	○続けることがむずかしい
花植え	○はなやかなになる	△世話を続けることがむずかしい
ベンキぬり	○明るくなる	△できるかどうかは分からない

岡さん

みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は、

「話し合いが続く」

四 岡さんは、「話し合いの様子(一部)」の「ごみ拾い」か「花植え」かを「話し合いの様子(一部)」から言葉や文を取り上げて書くこと。選んで話そうとしています。あなたが岡さんなら、どのように話しますか。その内容を次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)

- 「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選び、その問題点についての解決方法を考え書くこと。
- 「話し合いの様子(一部)」から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 書き出しの言葉に続けて、五十文字以上、八十文字以内にとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は、字数にはふくまない。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。  
※◆の印から書きましょう。どちらの行を要さないで、続けて書きましょう。

みなさんのアイデアや(メモ)から、取り組みやすいという理由で、私は、

(正答例)

「ごみ拾いがよいと思います。続けることがむずかしい点については、当番を決めてごみを拾ったり、地いきの方にも呼びかけて協力してもらったりするとよいと思います。」(77字)

★学習指導にあたって★

「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。」

本設問の正答率は、本市が41.6%、大阪府が44.4%、全国が47.7%。無解答率は本市が4.2%、大阪府が3.6%、全国が3.0%であった。解答類型を見てみると、条件である「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで書いており、【話し合いの様子(一部)】から言葉や文を取り上げて書くことができているが、「選んだアイデアの問題点に対する解決方法」を書くことができずに誤答となっている児童が全体の39.1%だった。

問題文から言葉や文を取り上げていることから、正答の根拠を探しているかと推察される。自分の考えを書き、まとめることができている児童が多いと考えられる。

話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した上で、自分の考えを広げたりまとめたりすることが大切である。その際、互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力も求められる。また、話し合いを通して、言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや、話し言葉では誤解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるように指導することも重要である。また、図表からも必要な情報を見付けたり、見付けた情報を言葉に表したりすることが求められる。

実際の授業場面では、話し合いの場面を設定し、相手の意見を聞き、まとめる機会を増やすとともに、相手の意見を踏まえた自分の意見を述べる機会を作る。例えば、思考ツールを活用して情報を視覚的にまとめたのち、変容した自分の意見を書くといった活動を行う。

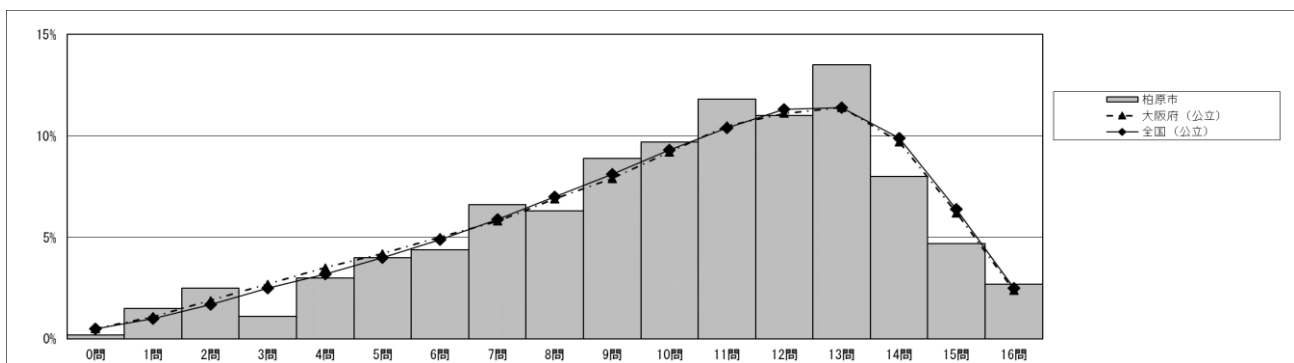
# 小学校算数

## 問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体			63	63	63.2	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	71.4	69.1	69.8	
	B 図形	4	63.7	62.9	64.0	
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	48.8	51.2	51.3	
	D データの活用	3	68.2	68.7	68.7	
評価の観点	知識・技能	9	68.8	67.9	68.2	
	思考・判断・表現	7	55.3	55.7	56.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	51.0	51.3	51.8	
	短答式	6	77.5	76.2	76.5	
	記述式	4	58.8	59.0	60.2	

- 全体の正答率について、大阪府と同等の結果となった。
  - 評価の観点では「知識・技能」について全国及び大阪府を上回っている。
  - ▼「変化と関係」「データの活用」の領域について、全国及び大阪府より下回っている。
  - ▼評価の観点では「思考・判断・表現」について、全国及び大阪府より下回っている。
- ※ ○印:成果 ▼:課題

## 正答数分布



## 学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
A 数と計算	C 変化と関係

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

全国、大阪府と比較すると、高位層がやや少ない。  
正答数13問(中位層)の割合が大阪府や全国に比べて多い。

小学校算数で課題の見られた設問 2(4)

(4) かいとさんたちは、果汁の割合と果汁の量がわかっているとき、飲み物の量を求めることができるかどうかを考えています。そこで、りんごの果汁の割合が30%で、果汁の量が180 mLのときの飲み物の量を求めることにしました。



果汁が30%ということは、果汁が30 mLのとき、飲み物の量は100 mLですね。



そうですね。私は、果汁の量から飲み物の量を求めるために、表にまとめました。

果汁の量と飲み物の量

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

上の表を見て、かいとさんは、次のことに気づきました。



果汁の量が2倍、3倍になると、それにもなって飲み物の量も2倍、3倍になることがわかりました。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing arrows between columns: 30 to 60 is 2倍, 60 to 90 is 3倍, 90 to 180 is 2倍, 100 to 200 is 2倍, 200 to 300 is 3倍, 300 to ? is 3倍.

ゆうかさんは、かいとさんが気づいたことをもとに、次のように考えました。



下の表のように、果汁の量が□倍になると、それにもなって飲み物の量も□倍になるのではないのでしょうか。このことを使えば、果汁の量が180 mLのときの飲み物の量を求めることができますね。

果汁の量 (mL)	30	60	90	...	180
飲み物の量(mL)	100	200	300	...	?

Diagram showing arrows from 30 to 180 labeled □倍, and from 100 to ? labeled □倍.

果汁の量が180 mLのときの飲み物の量は、何 mLになりますか。

180 mLが30 mLの何倍かをどのように求めたのかわかるようにして、飲み物の量の求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

(正答例)

(4)【求め方】(例) 果じゅうの量は、 $180 \div 30 = 6$ で、6倍になっています。果じゅうの量が6倍になると飲み物の量も6倍になるので、飲み物の量は、 $100 \times 6 = 600$ で、600mLになります。【答え】600(mL)

★学習指導にあたって★

「問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察することができるかどうかをみる」

割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理することが重要である。

そのために、例えば、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を表現したりすることができるようにすることが大切である。また、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例の関係を用いて、未知の数量を求めることができるようにすることも大切である。

正答率については、本市が41.6%、大阪府が47.7%、全国が48.0%。無解答率は本市が7.6%、大阪府が5.4%、全国が5.5%であった。解答類型を見ると果汁の量が6倍になると飲み物の量も6倍になることを用いて、果汁の量が180mLのときの飲み物の量を求める式や言葉については書けているが、180mLが30mLの6倍であることを求める式や言葉について書けていないものが多かった。



# 小学校理科

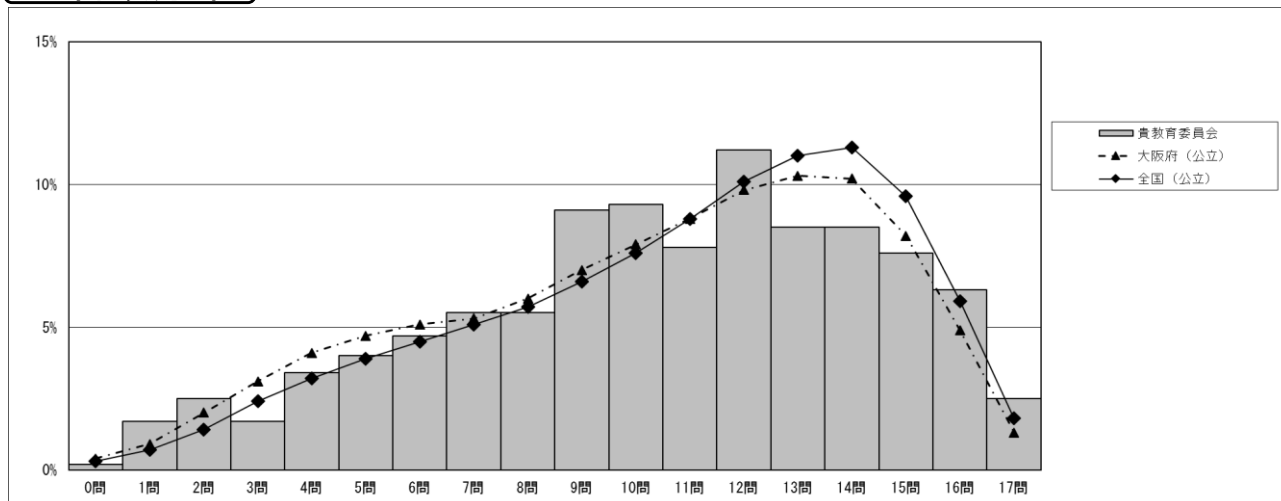
## 問題別調査結果

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)			<学習指導要領の領域等の平均正答率の状況>	
			柏原市	大阪府	全国		
全体			17	61	60	63.3	
学習指導要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	48.6	49.0	51.6	
		「粒子」を柱とする領域	5	59.3	56.8	60.4	
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	72.0	72.3	75.0	
		「地球」を柱とする領域	5	61.5	61.0	64.6	
評価の観点	知識・技能	6	59.8	59.5	62.5		
	思考・判断・表現	11	61.8	60.9	63.7		
	主体的に学習に取り組む態度	0					
問題形式	選択式	11	64.2	64.5	66.8		
	短答式	3	63.8	61.4	66.2		
	記述式	3	46.8	44.3	47.3		

○全体の正答率について、大阪府を上回る結果となった。

▼「エネルギー」を柱とする領域、「生命」を柱とする領域について、全国及び大阪府より下回っている。

## 正答数分布



## 学習指導要領の領域について

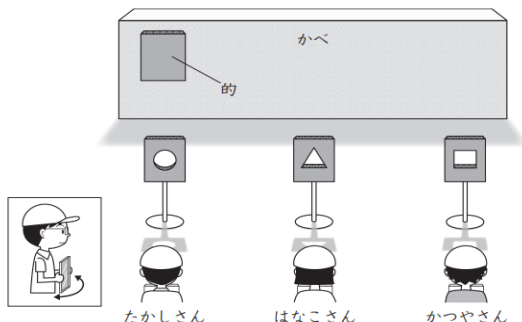
良好な領域	課題のある領域
「粒子」を柱とする領域	該当なし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い領域を「課題のある領域」としている。

正答数13問～15問(中位層～高位層)の割合が、全国、大阪府比べて低い。  
正答数9問、10問、12問(中位層)の割合が大阪府や全国に比べて多い。

小学校理科で課題の見られた設問 3(1)

3 たかしさんたちは、晴れた日に科学クラブで、同じ大きさの鏡を使い、日光をはね返して、<sup>的</sup>的あてゲームをしました。



上の図のように、3人とかべの間に、それぞれ、円形、三角形、四角形に切りぬいた、鏡と同じ大きさの段ボールの板を置きました。

(1) 3人が上の図の位置で鏡の向きを変え、それぞれが日光をはね返して、3つの段ボールの板にあてたときに、かべの左にある的に、三角形の光をあてることができるのはだれですか。下の **1** から **4** までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 たかしさん
- 2 はなこさん
- 3 かつやさん
- 4 全員

たかしさん: はね返した日光が2つ重なると、重なった部分が明るくなったね。

はなこさん: はね返した日光が2つ重なって明るくなった部分は、温度が高そうだね。

かつやさん: はね返した日光が3つ重なると、さらに温度が高くなると思うよ。

たかしさんたちは、切りぬいた段ボールの板をとり除き、次のような【問題】を実験の【方法】を決めて、調べることにしました。

【問題】	鏡ではね返した日光を重ねるほど、 <sup>的</sup> 的の温度は高くなるのか。
【予想】	はね返した日光を重ねるほど、明るくなるので、 <sup>的</sup> 的の温度も高くなると思う。
【方法】	<p>①段ボールの板のすき間に温度計をさしこんだのを、4つ作る。                  ②かべに①の<u>的</u>をはり、日光をあてる前の<u>的</u>の温度をはかる。                  ③鏡ではね返した日光を<u>的</u>にあて、3分後の<u>的</u>の温度をはかる。</p>

(正答) 3

★学習指導にあたって★

「問題に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた結果を適切に記録しているかどうかをみる」

実験の【結果】の記録を対象として、【問題】の解決に必要な情報が取り出された適切な記録について問うものである。

ここでは、【問題】に対するまとめを導きだすことができるように、実験の過程や得られた【結果】を適切に記録することが求められる。

実験の過程や得られた結果を適切に記録するには、問題を的確に把握し、何を記録する必要があるかについて判断することが大切である。

正答率については、本市が24.5%、大阪府が26.1%、全国が27.8%であった。解答類型を見ると「2」と解答しているものが48.2%と多く、問題の意味を正確に理解できていないのか、光が直線に進むことよりも、段ボールの板の形に意識が向いてしまっていたとも考えられる。

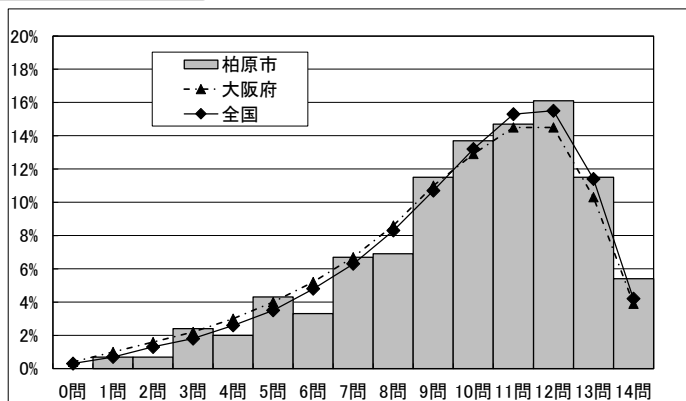
問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		14	70	67	69.0	
学習指導要領の領域等	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.9	70.7	72.2	
		(2) 情報の扱い方に関する事項	51.8	43.6	46.5	
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	70.8	69.0	70.2	
	思考力, 判断力, 表現力等	A 話すこと・聞くこと	65.0	59.9	63.9	
		B 書くこと	51.8	43.6	46.5	
		C 読むこと	69.5	66.2	67.9	
評価の観点	知識・技能	10	70.1	67.5	69.0	
	思考・判断・表現	6	64.3	59.3	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	74.0	72.1	73.7	
	短答式	5	71.5	69.6	70.3	
	記述式	3	60.0	53.5	57.4	

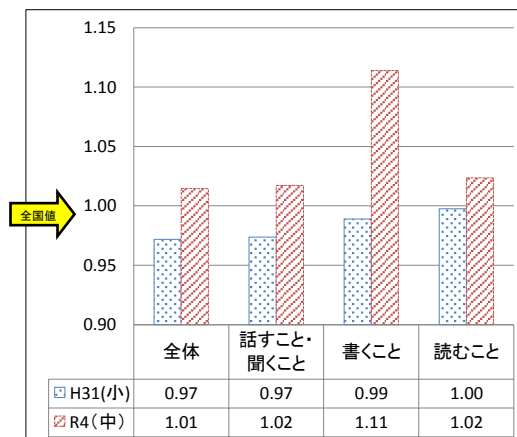
○全体の正答率および全ての領域・観点・問題形式において、府・全国平均を上回っている。  
 ○特に、領域「書くこと」においては、全国平均を5ポイント以上上回っている。  
 ▼経年変化より、「書くこと」と比較するとそれ以外の領域の伸び率がそれほど大きくはない。

※ ○印:成果 ▼:課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較 (H31-R4)



学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
《知識及び技能》 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項 (2) 情報の扱い方に関する事項  《思考力, 判断力, 表現力等》 全領域	特になし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

○概ね府や全国と同等の分布となっている。  
 ▼全問不正解の割合が0であり、全問正解の割合も府や全国を上回っている。

課題の見られた設問

1 三

学習指導要領の領域等

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項  
A 話すこと・聞くこと

	平均 正答率	無解答率
柏原市	54.0%	16.3%
大阪府	46.0%	21.4%
全国	51.8%	16.2%

1 川口さんは、国語の時間に、最近になったスピーチについてスピーチをする学習に取り組んでいます。川口さんは、動画に自分のスピーチを記録し、それを田中さんに見せて、助言をもらっています。次の「川口さんのスピーチ」と「二人の会話の一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

三人の会話の一部



川口さんのスピーチ  
最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校の学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと思います。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたことがあります。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気が取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができていないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

この言葉聞いてはっと思いました。オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときに、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思います。

田中 川口さんが話した内容が、どうでしょうか。  
川口 オンラインでインタビューをしたことを入れてみたが、どうでしょうか。  
田中 身振や内容で共感できました。始めに話したところの方がよいと思います。

《正答例》  
・「オンラインであっても、相手が話したことに相づちを打ったり、相手の話を受けてさらに質問をしたりするように意識することが大事だったのです。」という部分が一番伝えたいことなので、他の部分よりも大きな声で話す。  
・「やりとりをスムーズに行いにくいという面もある」の部分の印象を強めるために、訊いている人たちを見渡しながらかつ話す。

《学習指導にあたって》  
○出題の趣旨  
自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかを見取る。  
○評価の観点  
知識・技能 思考・判断・表現  
府や全国と比較しても正答率が低い訳ではないが、すべての問題の中で最も無解答率の高い設問である。  
本設問では、「スピーチの冒頭から同じ調子で話しているの、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などの話し方を工夫してみようか」という田中さんの助言を踏まえ、どのように工夫して話すのかを、意図とともに考えることを求めている。  
日頃の学習においては、「音声の働きや仕組みを意識しながら表現を工夫して話す」ことをふまえ、実際に声に出しながら工夫を考えたり効果を確認したりすることが重要である。  
具体例) スピーチを録画し、話し方のふりかえりや工夫の効果を確認するなどの学習活動 など

三 二人の会話の一部に「～部分③」他の部分の話し方を工夫して話します」とありますが、あなたならどの部分をもとに工夫して話しますか。次の条件1と条件2に1つずつ書きなさい。  
なお、読み返して文章を直したいときは、二枚紙で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに着目して具体的に書こう。  
条件2 条件1のように話す意図を書こう。

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

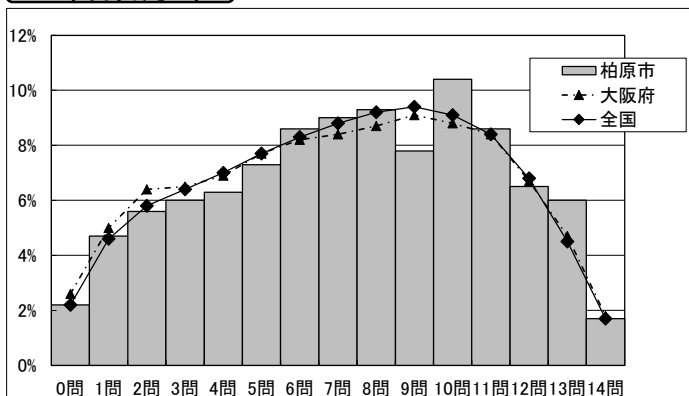
問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		14	52	51	51.4	
学習指導要領の領域	A 数と式	5	58.3	56.7	57.4	
	B 図形	3	42.8	43.2	43.6	
	C 関数	3	47.0	43.8	43.6	
	D データの活用	3	57.4	55.4	57.1	
評価の観点	知識・技能	9	60.5	59.3	59.9	
	思考・判断・表現	5	37.7	35.4	36.2	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	4	53.5	51.4	52.6	
	短答式	5	66.1	65.6	65.7	
	記述式	5	37.7	35.4	36.2	

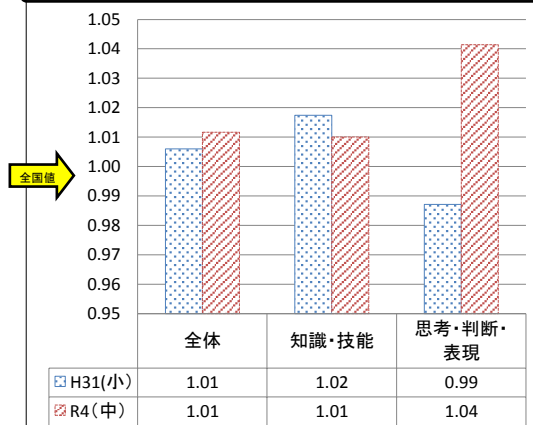
- 全体の正答率およびほとんどの領域・観点・問題形式において、府・全国平均を上回っている。
- 特に「C関数」の領域では、全国平均より3ポイント以上上回っている。
- 経年変化より、「思考・判断・表現」の観点で伸び率が大きい。
- ▼唯一「B図形」の領域で、府・全国平均を下回っている。
- ▼経年変化より、「知識・技能」の観点で課題が見られる。

※ ○印:成果 ▼:課題

正答数分布



【全国比】同一児童生徒集団経年比較(H31-R4)



※観点が変更されているため、H31(小)は「知識・理解」と「技能」の平均を示している。

学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
C 関数 D データの活用	B 図形

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

- 概ね府や全国と同等の分布となっている。
- ▼下位層(全問不正解も含む)の割合が多い。

課題の見られた設問

6 (3)

学習指導要領の領域等

A 数と式

6 康太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{lll} 2+2=4 & 4+2=6 & 6+2=8 \\ 2+4=6 & 4+4=8 & 6+4=10 \\ 2+6=8 & 4+6=10 & 6+6=12 \end{array}$$

$2+2=4$ 、 $4+4=8$ 、 $6+6=12$ のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、康太さんは次のように予想しました。

$4=4 \times 1$   
 $8=4 \times 2$   
 $12=4 \times 3$   
 3つとも4の倍数になっているね。



予想1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

上の予想1がいつでも成り立つことは、次のように説明できます。

説明1

$n$ を整数とすると、偶数は $2n$ と表される。  
 同じ2つの偶数の和は、  
 $2n+2n=4n$   
 $n$ は整数だから、 $4n$ は4の倍数である。  
 したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

	平均正答率	無解答率
柏原市	39.7%	23.7%
大阪府	36.0%	29.3%
全国	37.6%	26.2%

予想2

差が4である2つの偶数の和は、4の倍数になる。

$2+6$ と $6+2$ は同じとみていいから、(小さい方の偶数)+(大きい方の偶数)について説明すればいいね。



上の予想2がいつでも成り立つことを説明します。下の説明2を完成させなさい。

説明2

$n$ を整数とすると、差が4である2つの偶数のうち、小さい方の偶数は $2n$ 、大きい方の偶数は $2n+4$ と表される。それらの和は、

$$2n + (2n + 4)$$

=

(3) 同じ2つの偶数の和や、差が4である2つの偶数の和のほかにも、2つの偶数の和がいつでも4の倍数になることがあります。どのような2つの偶数のとき、その2つの偶数の和が4の倍数になりますか。前ページの予想2のように、「          は、          になる。」という形で書きなさい。

《正答例》

- ・差が4の倍数である2つの偶数の和は、4の倍数になる。
- ・差が8である2つの偶数の和は、4の倍数になる(最も正答数の多かった解答類型)。

《学習指導にあたって》

○出題の趣旨

結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかを見取る。

○評価の観点

思考・判断・表現

府や全国と比較しても正答率が低い訳ではないが、すべての問題の中で2番目に無解答率の高い設問である(最も無解答率が高い設問は9(2))。一方、正答率は4割程度とそれほど低くない。

本設問では、数に関する事象を考察する場面において、成り立つと予想される事柄について数学的に説明することを求めている。説明する際には、前提として、差が4の倍数である2つの偶数の和であることや、差が8や12である2つの偶数の和であることなどを明示する必要がある。その上で、前提によって導かれる結論として、2つの偶数の和が4の倍数になることを記述する必要がある。

日頃の学習においては、「結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする」ことをふまえ、与えられた事柄や予想した事柄が成り立つかどうかを考えさせる。また、具体例をあげて調べる活動を通して、結論が成り立つための前提を捉え、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。

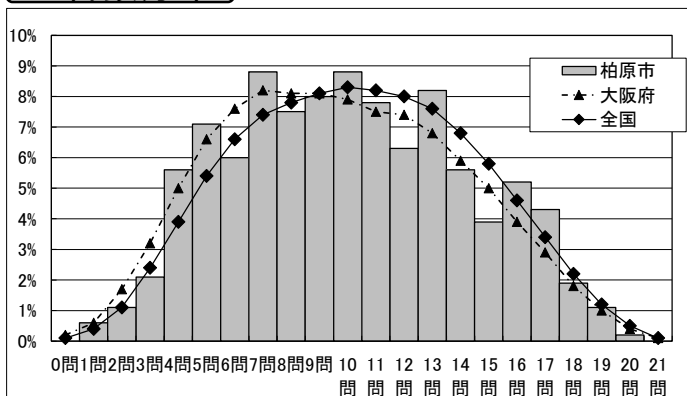
問題別調査結果

分類	区分	対象設問数(問)	正答率			＜学習指導要領の領域等の平均正答率の状況＞
			柏原市	大阪府	全国	
全体		21	48	47	49.3	
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	39.6	38.9	41.9	
	「粒子」を柱とする領域	5	49.7	48.7	50.9	
	「生命」を柱とする領域	5	56.5	53.2	57.9	
	「地球」を柱とする領域	6	43.1	42.8	44.3	
評価の観点	知識・技能	7	44.1	44.1	46.1	
	思考・判断・表現	14	49.7	47.8	51.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	15	48.0	47.6	49.6	
	短答式	1	21.8	22.0	24.8	
	記述式	5	52.5	48.3	53.5	

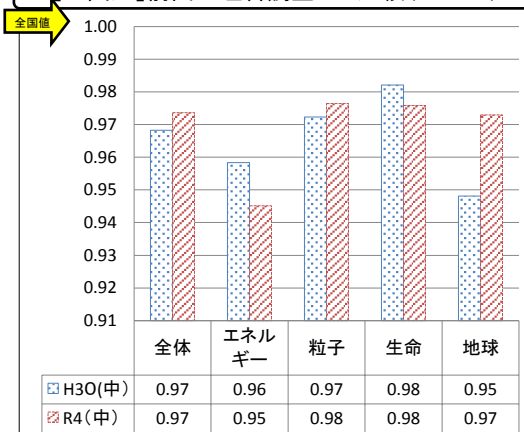
- 全体の正答率は、全国平均には届かなかったが府平均を上回っている。
- 特に「生命」領域は、府平均より3ポイント以上上回っている(全国平均には届いていない)。
- 記述式の問題では、府平均よりも4ポイント程度上回っている(全国平均には届いていない)。
- ▼いずれの領域・観点・問題形式においても、全国平均を下回っている。

※ ○印:成果 ▼:課題

正答数分布



【全国比】前回の理科調査との比較(H30-R4)



※同一児童生徒集団の経年比較ではない。

学習指導要領の領域について

良好な領域	課題のある領域
「生命」を柱とする領域	特になし

◆大阪府の平均正答率と比較して、2%以上高い領域を「良好な領域」、2%以上低い項目を「課題のある領域」としている。

- 概ね府と同等の分布になっている。
- ▼全国と比較すると下位層の割合が大きく、中上位層の割合が小さい。

課題の見られた設問

5 (3)

学習指導要領の領域等

「エネルギー」を柱とする領域

	平均 正答率	無解答率
柏原市	42.4%	29.7%
大阪府	37.5%	36.3%
全国	43.3%	29.4%

5 ばねを押すとき、加える力の大きさとばねが縮む長さの関係について、理科の授業で科学的に探究しました。  
(1)から(3)までの各問に答えなさい。

磁石を使ったばねを探究する場面

リニアモーターカーは、磁石の引き合う力と、磁石の退け合う力で押して走行します。  
磁石の退け合う力は「磁気ばね」として利用されています。

磁石の同じ極どうしを近づけたら、ばねみたいだったね。

「磁気ばね」では、加える力と縮む長さは比例するのかな。

ノートの一部

【新たな課題】

「磁気ばね」が縮む長さは、加える力の大きさに比例するか。

【実験の計画】

図3のように、磁石に加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させたときの「磁気ばね」が縮む長さを3回測定して平均をとり、グラフに表す。

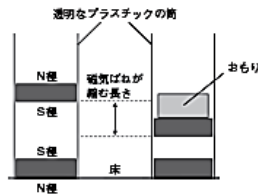


図3

【実験の結果】

力の大きさ(N)	0	0.5	1.0	1.5	2.0
縮む長さ(cm)	0	1.5	2.3	2.9	3.2

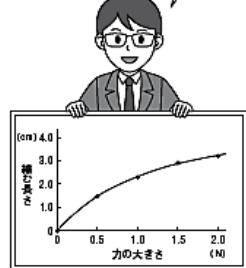
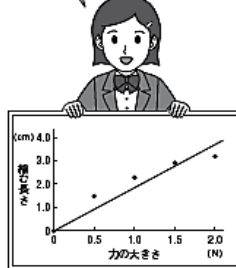
【考察】

.....

グループで個人の考察を検討している場面

グラフが原点を通る直線になるので、比例すると考えます。

グラフは原点を通るけれど、直線にはならないので、比例しないと考えます。



測定値が足りないため、どちらの考えが妥当か判断できません。

(3) 下線部について、測定値とどのように増やせばよいか、【実験の計画】の「加える力の大きさを0から0.5Nずつ2.0Nまで変化させた」の部分を見直しなさい。

《正答例》

- ・加える力の大きさを0Nから0.2Nずつ2.0Nまで変化させる(最も正答数の多かった解答類型)。
- ・加える力の大きさを3.0Nにして測定する。

《学習指導にあたって》

○出題の趣旨

考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかを見取る。

○評価の観点

思考・判断・表現

○枠組み(視点)：「検討・改善」

磁気ばねを素材とした実験方法やその結果を確認し、その結果を考察する段階において、作成したグラフをより適切なものに改善するためにどうすればよいかを思考する問題である。

府や全国と比較しても正答率が低い訳ではないが、すべての問題の中で最も無解答率が高く、3割の生徒が無解答である。一方、正答率は4割程度とそれほど低くない。国研の分析では、平均正答率付近の生徒でも無解答率が3割程度であり、また、平均正答率と生徒質問紙の回答に他の設問のような有意な差がみられないことから、生徒にとって本設問はこれまでにあまり触れたことのない未知の課題であったのではと分析されている。

日頃の実験・観察においては、「考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善できるようにする」ことをふまえて、考察の妥当性と高めるために実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善する機会を設けることが重要である。また、作業のみをこなしているためにその意味を理解していなかったり、学力の高い生徒のみが実験に取り組んだり考察していたりすることがないよう、工夫を凝らすことも意識したい。

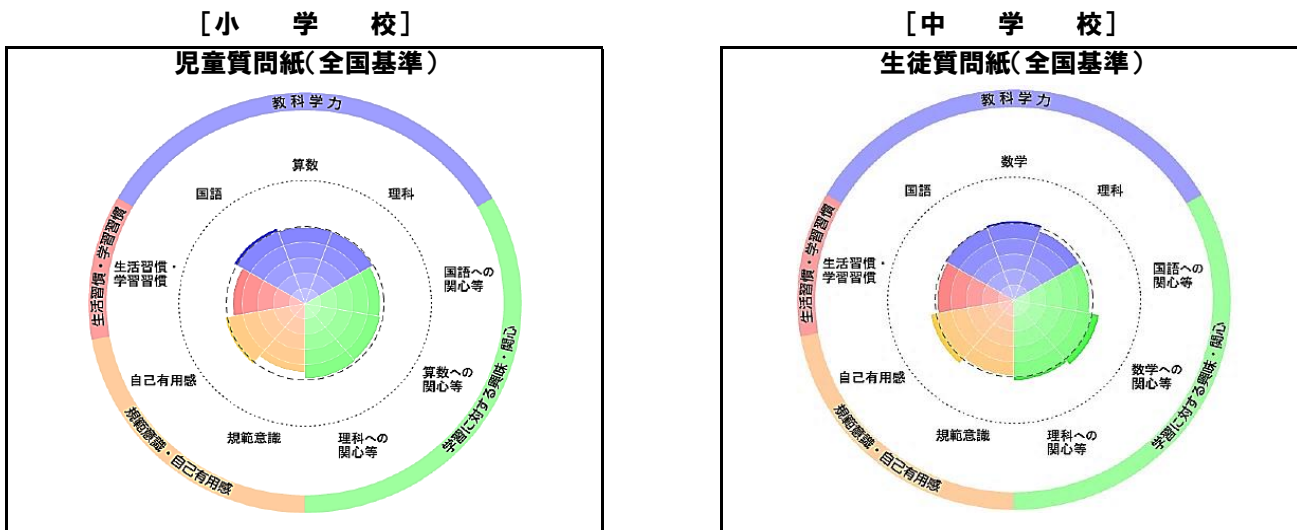


# 児童・生徒質問紙調査について 《概要①》

## 1. 全国学力・学習状況調査結果チャート

(教科に関する調査および児童生徒質問紙調査の結果を全国値を基準に図示したもの)

※全国平均は破線(---)部分、柏原市平均は色つき部分



## 2. 児童・生徒質問紙のクロス分析について (p.19、20参照)

全国的に下記のように回答している児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

『全国学力・学習状況調査報告書～質問紙調査～』(国立教育政策研究所)より

### 【基本的生活習慣等】

- ①(5) 普段(平日)、1日当たり、テレビゲーム(携帯電話やスマートフォン等を使ったゲームも含む)をする時間が短い。
- ②(6) 普段(平日)、1日当たり、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをする時間が短い。

### 【学習習慣、学習環境等】

- ③(22) 学校が休みの日に、1日当たり、勉強をする時間(学習塾、インターネット学習等も含む)が長い。
- ④(26) 読書が好き。

### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組み状況】

- ⑤(38) 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。
- ⑥(39) 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ。
- ⑦(43) 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた。

⇒ これらの項目について、柏原市の結果を p. 19、20 に掲載。

※【ICTを活用した学習状況】と平均正答率との相関関係は指摘されていないが、本格的な活用が始まって間もないため、中長期的に検証する必要がある。

## 3. ICT活用において柏原市で課題が見られた項目 (p.21参照)

- ⑧(32) 前年度までに受けた授業で、ICT機器をどの程度使用したか。
- ⑨(33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、ICT機器をどの程度使っているか。
- ⑩(34) 学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、ICT機器をどの程度使っているか。
- ⑪(35) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器をどの程度使っているか。

⇒ これらの項目について、柏原市の結果を p. 21 に掲載。

## 児童・生徒質問紙調査について《概要②》

### 4. 質問項目一覧 ～経年変化および全国との比較における特徴～①

経年（肯定的回答(回答1+2)について)「○」+5%以上「▼」-5%以上「-」前年度の調査なし等

※昨年度との比較のため、同一集団の経年変化ではない。

対全国      = +5%以上      = -5%以上

※いずれの場合も、回答が複雑な質問内容については、総合的に判断している。

#### 【基本的な生活習慣等】

番号	内容	中学校の文言で記載 (小学校も内容は同じ)		小学校	中学校
(1)	朝食を毎日食べていますか				
(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか				
(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか				
(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか				○
(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか	▼			○
(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除	-			-

#### 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等】

番号	内容	小学校	中学校
(7)	自分には、よいところがあると思いますか		○
(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	-	-
(9)	将来の夢や目標を持っていますか	▼	
(10)	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	▼	
(11)	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか	▼	
(12)	人が困っているときは、進んで助けていますか		
(13)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか		
(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	-	-
(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	▼	
(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか		
(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	▼	○
(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか		

#### 【学習習慣、学習環境等】

番号	内容	小学校	中学校
(19)	家で学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていますか(複数選択)	-	-
(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	▼	
(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)	▼	
(22)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)	▼	
(23)	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)		
(24)	新聞を読んでいますか	▼	
(25)	読書は好きですか	-	-
(26)			

#### 【地域や社会に関わる活動の状況等】

番号	内容	小学校	中学校
(27)	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありますか	-	-
(28)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか(習い事の先生は除く)	-	-
(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	▼	
(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	▼	○

#### 【ICTを活用した学習状況】

番号	内容	小学校	中学校
(31)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)	-	-
(32)	1, 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	-	-
(33)	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)	-	-
(34)	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	-	-
(35)	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか	-	-
(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか		
(37)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っていますか		

## 児童・生徒質問紙調査について《概要③》

### 4. 質問項目一覧 ～経年変化および全国との比較における特徴～②

経年（肯定的回答(回答1+2)について)「○」+5%以上「▼」-5%以上「-」前年度の調査なし等  
※昨年度との比較のため、同一集団の経年変化ではない。

対全国 □ = +5%以上 ■ = -5%以上

※いずれの場合も、回答が複雑な質問内容については、総合的に判断している。

中学校の文言で記載  
(小学校も内容は同じ)

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

番号	内容	小学校	中学校
(38)	1, 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか		○
(39)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	▼	○
(40)	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	-	-
(41)	1, 2年生のときに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	-	-
(42)	1, 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	▼	
(43)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	▼	○
(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	▼	○

#### 【総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳】

番号	内容	小学校	中学校
(45)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	▼	○
(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	▼	○
(47)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	▼	
(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか		○

#### 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(国語)】

番号	内容	小学校	中学校
(49)	国語の勉強は好きですか		
(50)	国語の勉強は大切だと思いますか		
(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか		○
(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか		

#### 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(算数・数学)】

番号	内容	小学校	中学校
(53)	数学の勉強は好きですか	▼	○
(54)	数学の勉強は大切だと思いますか		
(55)	数学の授業の内容はよく分かりますか	▼	○
(56)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか		
(57)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	▼	
(58)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	▼	
(59)	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	-	-
(60)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	▼	

#### 【学習に対する興味・関心や授業の理解度等(理科)】 ※前回調査(H30)との比較

番号	内容	小学校	中学校
(61)	理科の勉強は好きですか		
(62)	理科の勉強は大切だと思いますか		○
(63)	理科の授業の内容はよく分かりますか		
(64)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	○	○
(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか		○
(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	○	○
(67)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	○	○
(68)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	○	○
(69)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	○	○

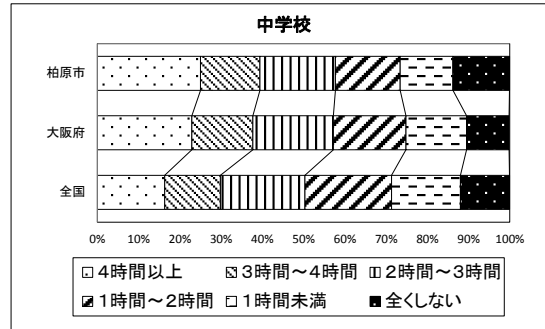
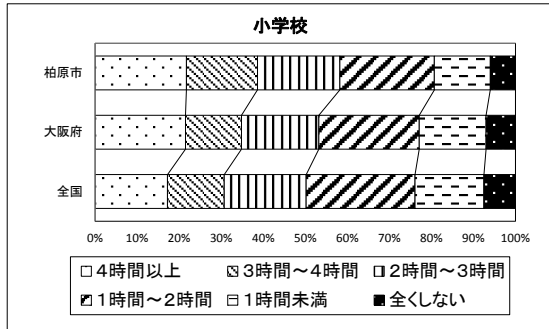
○前年度との比較(同一集団ではない)では、中学校では、肯定的な回答をしている割合が全体的に増加している。  
一質問紙調査における肯定的な回答の割合と教科の平均正答率には全体的に相関関係があることがわかる。  
(前年度と比較した平均正答率は、小学校では低く、中学校では高くなっている)  
▼小・中学校共通しての課題点は、「ゲームやスマホの使用時間が長い」(5・6)、「学校外での学習、自学自習時間が短い」(20～22)、「授業中に子どもがICT機器を活用したり日頃ICT機器を学習のために使用している機会が少ないこと」(32～34・37)である。加えて小学校では、「主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が十分ではないこと」(40・41・43・44)も課題が見られた。

# 児童・生徒質問紙のクロス分析について 《柏原市の結果①》

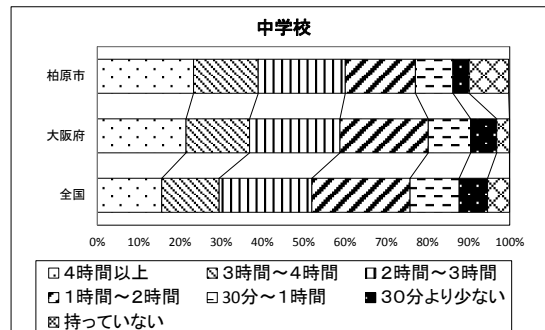
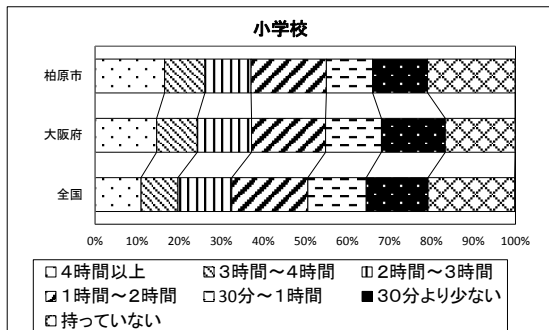
※全国的に教科の平均正答率と相関関係が見られる項目(p. 16)について、柏原市の結果を示している。

## 【基本的生活習慣等】

- ① (5) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか



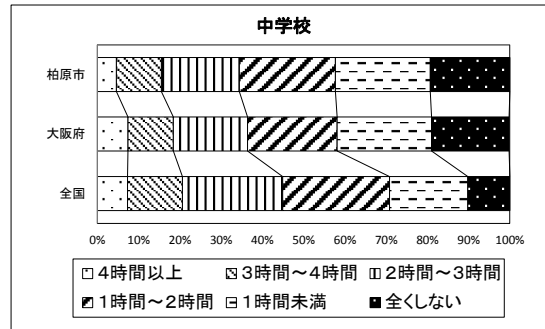
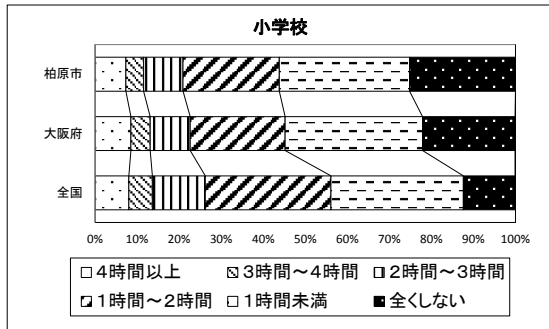
- ② (6) 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)



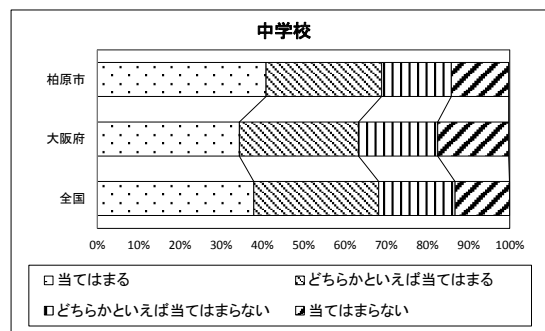
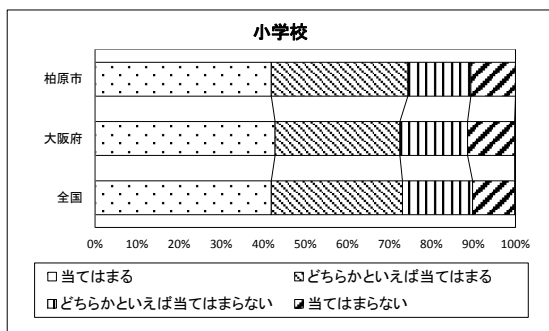
▼小・中学校ともに、全国と比較して長時間使用している割合が大きい。  
 ▼特に中学校は、5~6割程度の生徒が、平日に2時間以上使用している。  
 【クロス分析】使用時間が短いほど、教科の平均正答率が高い傾向にある。ただし、特に中学校については、「全くしない」「持っていない」生徒の正答率はそれほど高くはない(長時間使用している生徒と同じくらい)。

## 【学習習慣、学習環境等】

- ③ (22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



- ④ (26) 読書は好きですか



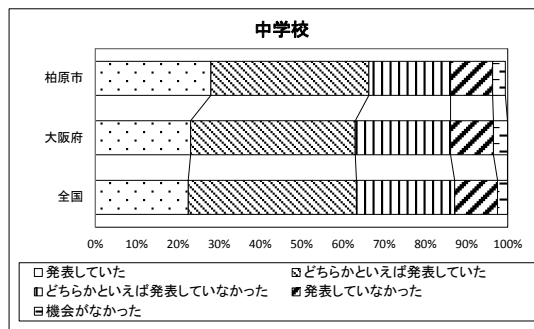
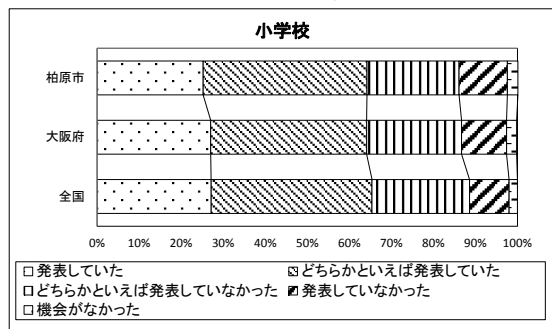
▼小・中学生ともに、全国と比較して休日に家庭等で学習をする時間が少ない。  
 ▼「1時間未満」「全くしない」と回答した児童生徒が、4~6割にのぼる。  
 ○「読書が好き」と回答している児童生徒は、全国と同等の割合である。  
 【クロス分析】「読書が好き」と回答している児童生徒が教科の平均正答率が高い傾向にある。休日の学習時間についても、長いほど正答率が高い傾向にあるが、中学校は「4時間以上」と回答している生徒の正答率が低下している傾向がある。

## 児童・生徒質問紙のクロス分析について 《柏原市の結果②》

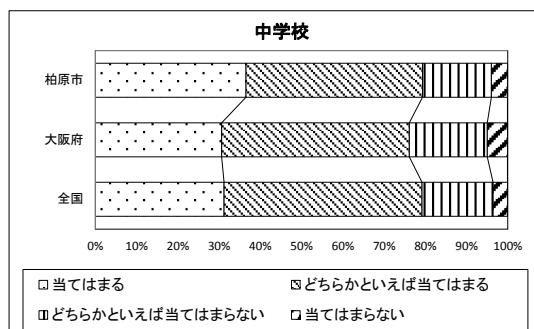
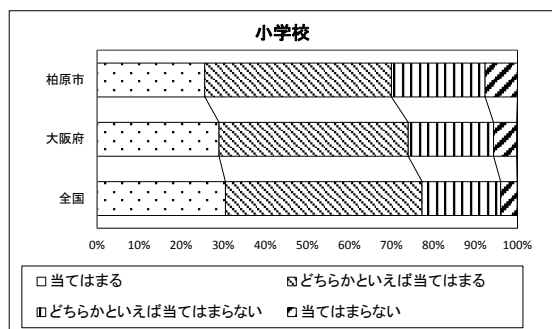
※全国的に教科の平均正答率と相関関係が見られる項目(p. 16)について、柏原市の結果を示している。

### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組み状況】

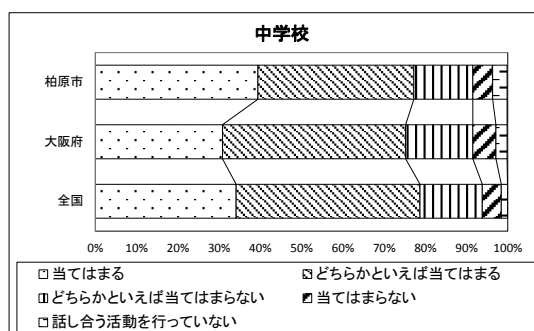
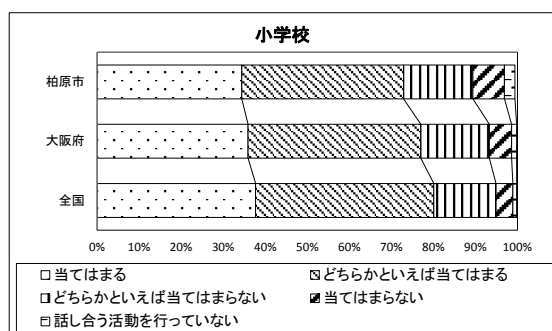
- ⑤ (38) 前年度までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の立てなどを工夫して発表していましたか



- ⑥ (39) 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



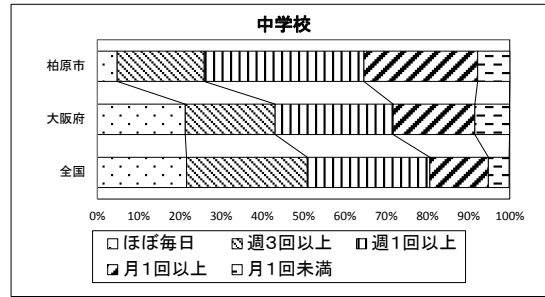
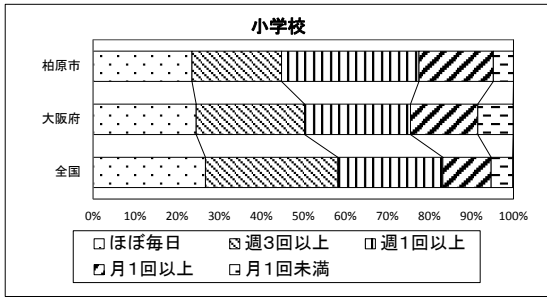
- ⑦ (43) 学級の児童生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



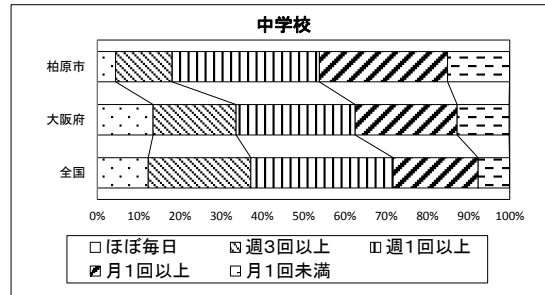
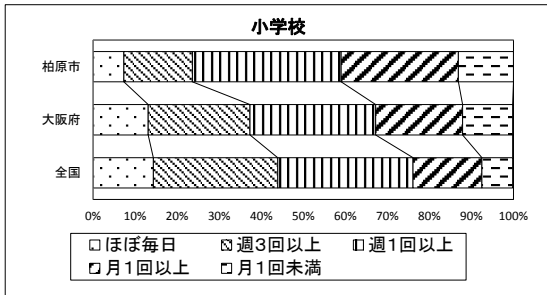
○中学校においては、いずれの項目においても全国と同程度の割合で肯定的な回答をしている。  
 ▼小学校においては、全国と比較して肯定的な回答をした児童の割合が少し小さい。  
 【クロス分析】いずれの項目においても、肯定的な回答をしている児童生徒の教科の平均正答率が高い傾向にある。

# ICT活用において柏原市で課題が見られた項目

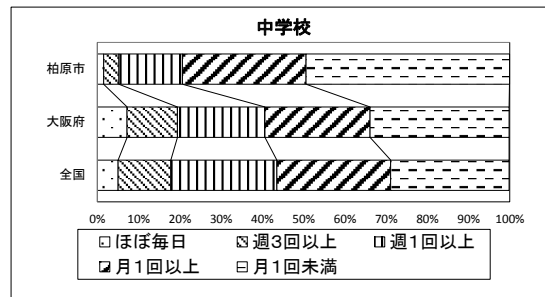
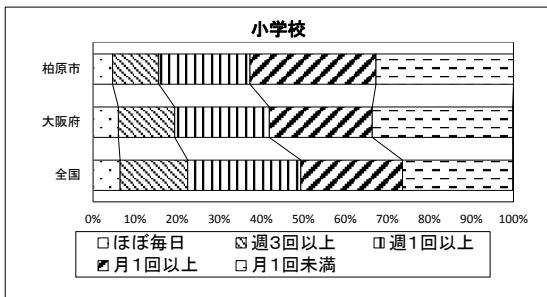
⑧ (32) 前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



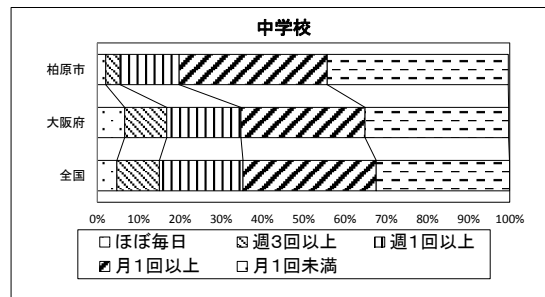
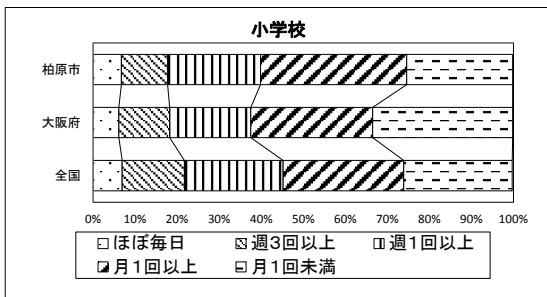
⑨ (33) 学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)



⑩ (34) 学校で、学級の児童生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



⑪ (35) 学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか



▼授業中でのICT活用について、特に中学校において全国や府と比較して活用が少ない。内容によっては「月1回未満」とほとんど活用していない割合も大きい。一方、質問(36)「学習の中でICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」では、9割以上の児童生徒が肯定的な回答をしている。  
 【クロス分析】いずれの項目においても、教科の正答率との高い相関性は見られない。ただし、小・中学校ともに「月1回未満」と回答した児童生徒の正答率は低い傾向にある。中学校においては、質問⑩⑪(交流や発表)については、活用する頻度が低いほど正答率が高い傾向が若干みられる。  
 ⇒活用量が十分ではなかったり、活用方法が成熟されていなかったりする可能性をふまえ、検証する必要がある。

【学校質問紙の関連項目より】

学校質問紙においても、ICT機器について「授業での活用」「支援学級での活用」「教職員と児童生徒とのやりとり」「家庭での活用」「教職員と家庭との連絡」などにおいて、活用する割合が少ないとの回答結果となった。一方、校務におけるICT活用においては、「校務の効率化」「事務作業の負担軽減」「支援員のサポート体制」等について肯定的な回答の割合が高かった。  
 ⇒校務におけるICT環境や授業における「教員」のICT活用については一定の成果が見られるが、授業における「児童生徒」のICT活用に課題があると考えられる。

## 《本年度の結果概要》

### ①平均正答率(全国を1.00として)

教科(正答率)		H28	H29	H30	H31(R1)	R3	R4	目標値	
小学校	国語	A	0.96	0.98	0.99	0.97	1.02	0.99	1.00 以上
		B	0.96	0.92	0.97				
	算数	A	0.96	0.99	0.99	1.01	1.01	1.00	1.00 以上
		B	0.93	0.96	0.99				
中学校	国語	A	0.97	0.97	0.97	0.96	0.93	1.01	1.00 以上
		B	0.96	0.94	0.93				
	数学	A	0.97	0.98	0.97	0.97	0.89	1.01	1.00 以上
		B	0.94	0.94	0.87				

※H31(R1)年度からA問題とB問題が一体化。理科と英語は4年ごとの調査なので省く。

### 【評価】

中学校では国語・数学ともに全国平均を超え、目標値を達成した。小学校でも概ね全国平均と同様の数値であったが、昨年度よりは下回っている。今年度の分析をふまえ、特に中学校では昨年度との結果の差異に着目しながら、「かしわらっ子はぐくみプラン(第3期柏原市学力向上計画)」をもとに課題の改善に向けて取り組む。

### ②正答率40%以下及び80%以上の経年変化 (3ページ参照)

### ③生徒質問紙より

全体的な傾向として、質問に対する肯定的な回答の割合が大きいほど、教科の平均正答率が高い。昨年度と比較すると、平均正答率が高くなった中学校では、質問に対する肯定的な回答をした生徒の割合が大きくなっている。小学校は逆の傾向である。

### 《昨年度課題と捉えていた項目について》

#### 【基本的な生活習慣等】 小中(5)(6)

・朝食の喫食状況や就寝起床時間については、大きな課題は見られないが、ゲームをする時間、SNSや動画視聴をする時間が全国平均よりも長い傾向にある。

#### 【家庭学習、学習環境等】 小中(20)(21)(22)

・小中学校ともに、家で計画を立てて勉強をする機会が少なく、学校外で家庭等で学習する時間が短い。休日についても、勉強をまったくしなかったり、1時間未満しかしない児童生徒が4～6割にのぼっている。

#### 【ICTを活用した学習状況】 小中(32)(33)(34)(37) 中(35)

・児童生徒はICT機器の活用が勉強の役に立つと考えてはいるが、授業内で生徒がICT機器を使用する機会(検索、意見交換、発表など)が少ない(特に中学校での活用頻度が低い)。また、学校外でもICT機器を勉強に使う頻度が少ない。

・学校質問紙の回答からは、教職員の校務における活用は進んでおり、業務改善についての手ごたえも感じている。校務で活用技能を授業でのICT活用にいかしたい。

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善】 小(39)(40)(43)(44)

・課題解決に向けて自分で考えたり、考えをまとめたりする活動、また、学級の児童生徒との協働的な活動、次の学習にむけて改善する活動などにおいて、特に小学校において課題が見られる。一方、中学校では肯定的な回答をしている割合が全国と同等となり、改善傾向が見られる。

## 《今後の取組み》

### ○教育委員会としての今後の取組み

- ・全国学力・学習状況調査の分析を市内で共有し、各校の授業改善に活用する。
- ・授業はもちろん、授業以外でも子どもの主体的な学びを促すため、家庭学習や自学自習の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく。
- ・スマートフォンやSNSについて安全な使い方やリスクを学べる研修を実施し、日常生活におけるスマートフォン等の適切な使い方や情報モラルを含めた情報活用能力の育成を支援する。
- ・教員の授業力のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を実施する。とりわけ、ICT活用においては、授業での子どもの使用について着目し、学力向上につながる活用を共有したい。ただし、効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による公開授業や実践発表をとおして、他の教員、特に経験の浅い教員も高い指導技術を習得できるようにする。そのため、学校公開の授業参観及び取組み報告会、校内研究授業に参加し、好事例等の集約に努める。

### ○学校における今後の取組み

- ・全国学力・学習状況調査の分析結果について、全国、府、市の状況を参考に、学校の実態や目の前の子ども様子をふまえながら授業改善や各取組みの質の向上に活かす。
- ・教員全員が授業力向上をめざし、新しい学習指導要領の意図をふまえた授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる。
- ・ICT教育推進リーダーを中心に、授業や家庭学習において、ICTを効果的に活用できる学習指導を充実させる。あわせて、情報モラルを含めた情報活用能力の育成を図る。
- ・校務におけるICT活用をさらに充実させ、ゆとりをもって教員が子どもに向き合うことができるようにする。
- ・タブレット端末や個人のスマートフォンの家庭での使用について、基本的な生活習慣の観点も含めて家庭と連携しながら適切に使用できるように指導する。

### ○家庭にお願いすること

- ① 基本的な生活習慣の定着
  - ・決まった時間に寝起きすることを心がけ、適切な生活リズムを意図的につくる。
  - ・生活リズムが崩れないよう、発達段階に応じた適切な睡眠を取るよう促す。
  - ・朝ごはんを食べるように促し、学校での学習の質の向上につなげる。
- ② 家庭学習・主体的な学びへの支援
  - ・発達段階に応じて家庭学習の適切な時間を定め、学習習慣を定着させる。
  - ・宿題だけでなく、子どもが主体的に家庭でも学習できるように支援する。
  - ・子どもの興味関心に基づき、主体的に学びに向かうことができるように支援する。
- ③ スマートフォンやPC、ゲーム等の使用についてのルールづくり
  - ・ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用状況を把握し、その使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、適切なルールを決める。
  - ・タブレット端末等のICT機器を活用し、適切なオンライン学習ができるように支援する。

## 《これまでの柏原市及び教育委員会の教育計画》

平成23年	「第4次柏原市総合計画」策定
平成26年	「柏原市教育振興基本計画」策定
平成28年	「かしわらっ子はぐくみプラン(第1期柏原市学力向上計画)策定
平成29年	「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」策定
平成31年	「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上計画)策定
令和 3年	「第5次柏原市総合計画」策定
令和 4年	「柏原市教育振興基本計画(第2期)」策定
令和 4年	「かしわらっ子はぐくみプラン(第3期柏原市学力向上計画)策定

上記の「柏原市教育振興基本計画(改訂版)」と「かしわらっ子はぐくみプラン(第2期柏原市学力向上計画)」において、その成果指標として、「平均正答率と正答率40%以下及び80%以上を全国並みにする」としている。